

地域医療を育てる会 情報紙 クローバー



CLOVER

発行 地域医療を育てる会
代表 藤本晴枝
http://www.geocities.jp/haruefjmt/
第2号 平成17年7月5日発行
東金市東金1142 「東金の家」内
TEL: 090-7634-7175

山武地域の救急患者のうち二割が搬送される成東病院。(平成十六年一月一日〜十二月三十一日)その脳外科医 田中医師に、現在の医療機関が抱える課題についてうかがった。

平成十七年四月、山武地域の公立病院の医師が七名減った。成東病院でも二名いた脳外科医が四月から二名になった。それまで、成東病院は毎晩脳外科医が当直をしていたが、この4月からはそれができなくなった。

だから医師は忙しい

田中医師の一週間の標準的な勤務状況をうかがった

月曜日 病棟(入院患者)の回診。入院患者への説明(病状、今後の治療方針など)。入院患者に関するオーダー(検査薬の指示書)を書く。急患の対応。急患が来ると大抵一五時ごろ昼食をとり、その後も患者の検査や治療をする。帰宅は二十一時過ぎ。

火曜日 外来 九時〜十五時または十五時半。このあと昼食。病棟業務。
水曜日 手術 十時〜十六時。この間、口にしたのはジュース一本のみ。
木曜日 外来 九時〜十五時。このあと昼食。病棟業務
金曜日 外来 九時〜十四時。このあと昼食。病棟業務

このスケジュールに加えて、当直が月に四回。(平成十七年四・五月は月八回だった。)

医師確保

これは今、ほとんどの地方病院が頭を痛めている。この地域の輪番病院は、三次救急(救命のための高度

医師が足りない。



この地域は、医師・看護師といった医療資源が少ない。その中でできるだけ多くの人に必要な医療を提供するために、病院と診療所の役割分担をこなすはならない。そのことを住民も理解して、まずは夜急診にかかるとを考えると、中々、電話もせず、中には、直接、電話もせず、に病院に来る患者さんもいます。そのときに病院で重症患者の治療をしていけば、来た患者さんも結果的には何時間も待たなくてはなり

住民の声

KUMON JUNE

な治療)ができない。「このよつな、いわゆる中途半端な病院には、大学も医師を派遣しないし、逆に大病院の人手不足を補うために、病院の医師を大病院に引き上げてしまう。」と、田中医師は考えている。

思わず出てしまった素朴な質問。

Q.「なぜ、この厳しい状況の中で、お仕事を続けていけるのですか？」

A.「使命感ですね。この地域に住む約15万人の人に対して、脳外科の専門医は二人しかいません。しかも、神経を扱う専門医も、山武管内にはこの二人だけなんです。大学では、「君たちは脳腫瘍や、くも膜下出血の治療に専念しなさい」と教わるのですが、この地域ではそれはできないわけ、脳外科医は頭が「何でも屋」になっています部分もありますね。時には酔っ払った人に殴られそうになったりもするわけで、「何でも診る」んです。時には酔っ払った人に殴られそうになったりもするわけで、「何でも診る」んです。使命感、言い換えれば、できるだけ患者を断らずに診ていこうという思いがなければ、やっていけないでしょうね。」

地域医療を育てる会

私たちは、誰でも健康で安心して暮らしたいと思っています。そのために、医療をはじめ行政・福祉などさまざまな専門職の方々が、毎日一生懸命働いておられます。一方、医療を取り巻くさまざまな課題が、この地域にあります。

その中でも大きな問題は、二つあります。

「関係」問題と「関係」問題

住民は苦情を言う側で、専門職が苦情に対する答えを出す側。これが今までの関係でした。「行政が何とかしてくれ、病気が怪我のことは、医者任せしておけばいい...」という言葉、どこかで聞いたことがありますか？

住民の「主体性」

医療や福祉の課題は、誰かが何とかしてくれるものでしょうか？住民は何もしなくて、ただ誰かに何かをしてもらおうのを待っているだけなのではないか？病気や怪我の治療は

医師がするにしても、患者の数を減らすことは、私たち住民でできるはず。また、縦割りになっているサービスについては、住民の側からのアイデアで横のつながりを作っていくことができるでしょう。

地域医療を育てる会は、「対話をする地域医療」を育てたいと願っています。

私たちの会では、「この地域の医療・福祉の課題を解決するために、住民と、医療・福祉行政の四つの立場の人々が互いに知恵を出し合う必要がある」と考えています。

懇談会を開きます。

懇談会のテーマはいろいろですが、そこには住民と、医療・福祉行政に携わる人々が一緒に集まります。車座になって、腹を割って話し合います。時には、病気の予防のための講演会になるときもあります。そこから、住民は現場の事情を知り、専門職は住民の生の声を聞きます。そして、「ではどうしていったらいいのか」を共に考えます。

月に一回「クローバー」を発行します。

この地域の医療に、今ど

なことが起こっているのか。時にはこの地域の過去を振り返り、また未来のことを考えます。そして、今の医療を支え未来につなげていくために何をしたらいいのか、を考えるための情報を出していきます。

地域医療を育てる会は、これから成長していきます。

今は懇談会の開催と、「クローバー」の発行が主な活動ですが、私たちの会ではこれから先、さまざまな活動をしていきたいと考えています。そのどれもが、この地域に「対話をする地域医療」を育てるための活動です。

会のシンボルマークは、四葉のクローバーです。住民、医療・福祉行政の四つのハート(心)が一つになって、育つていくようにとの願いを込めました。そしてクローバーを支える「て」の文字は、この関係を大切に育てていきたいという願いです。

あなたも、この四つのハートのお仲間になりませんか？

今まで開いた懇談会のテーマ

「地域の医療を考える」「障害児のケア(二回)」「糖尿病の予防」「一緒にしゃべろう子どもの命の健康」

